



Weekly Report

第2211回例会 2018年2月21日 国際ロータリー第2580地区

武蔵村山RC
第46代クラブ会長
波多野 晃夫

2017~18年度RI会長 イアン H. S. ライズリー 2580地区ガバナー 青田 雅俊

東京武蔵村山RC テーマ

「共に学び、そして実践しよう」

本日の例会

地区大会 2/20・21
京王プラザホテル

2017~18年度RIテーマ



ロータリー:
変化をもたらす

次回の例会

ジュニアサッカー大会
3/3(土)

【第2210回例会週報】2018年2月14日(水)

司会 宮崎 茂夫 SAA会場運営委員

点鐘 波多野 晃夫 会長

斉唱

我等の生業
ソングリーダー
内野 均 会員



入会セレモニー 阿久津 圭吾 会員



来客紹介

- 太田 俊一 様
・卓話講師
・東京上野RC
・地区ロータリー希望の風奨学金支援特別委員会
委員長

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前々回出席率修正
35名+1	23名	75.76%	なし

- 事前メーキャップ
藤野 豊 会員 (次年度G補佐会議)
木内 敬三九 会員 (RYLA)

- 出席免除会員
波多野 稔 会員 榎本 昭 会員 宮崎 恒夫 会員

会務報告 波多野 晃夫 会長

- 地区研修協議会の案内が届きました。
・4月12日(木)13:00~登録開始
*該当の方へは次年度会長、幹事より連絡があります。
- 第26回 多摩分区交流会「若手の会」の案内
・2月26日(月)19:00~
・「潮」JR五日市線 東秋留駅北口 徒歩1分
・切:2月2日 秋川RCへ
- 東海大菅生高校より卒業式の案内
・3月6日(火)10:00

幹事報告 新海 正人 幹事

- 地区大会に続けてサッカー大会ということで、この例会場での例会が3月7日までございません。3月14日に3RC合同例会を予定しています。例会につき懇親会では、ものまね芸人を手配しています。楽しい宴会を3クラブ合同で行いたいと思っております。



ニコニコBOX (嶋田 哲男 親睦委員)

太田俊一様(東京上野RC・卓話講師)本日卓話させていただきました。このニコニコは、ロータリー希望の風奨学金にご使用下さい。
波多野晃夫会長・新海正人幹事 地区ロータリー希望の風奨学金支援特別委員会 太田委員長、ようこそいらっしゃいました。本日は卓話よろしくお願ひします。
阿久津さん、入会お待ちしております。武蔵村山RCの仲間として今後共よろしくお願ひ致します。
内野均会員 阿久津さん入会おめでとうございます。これからロータリーライフを共に楽しみましょう。
薄井政光会員 誕生月を祝っていただきありがとうございます。
田中伸彦会員 阿久津さん、ロータリー入会ありがとうございます。これから楽しくやっていきましょう。

今回計 18,000円 累計 977,000円



「ロータリー希望の風奨学金」

地区ロータリー希望の風奨学金支援特別委員会委員長

太田 俊一様

本日はお招きいただきありがとうございます。また、阿久津さん入会おめでとうございます。私は入会して9年目です。入会して3年目からクラブ内の委員長を毎年のようにやらされて色々なことを勉強しました。大変だと思えますけれども、自分のリーダーシップが身に付きます。特に大きな委員長を務めると自分の会社の業績がよくなった先輩も沢山います。つまり、経営者として鍛錬されるんですね。ぜひ、自分のためにやっていると楽しくなさったほうがよろしいかと思えます。あと、最近嫌なことは嫌だと断ってもいいんです。ロータリーは頼まれたら断れないと無茶なことを言う方が多いんですが、出来ないことは出来ないということもごさいます。

さて、本日のテーマは「希望の風奨学金」です。希望の風奨学金プロジェクトは震災の年から7年が経過して、間もなく7年目に入るところです。これもひとえに全国のロータリアンの皆さんのご支援の賜物だと感謝しております。私たちの役割は一言で申しますと募金集め、一人でも多くのロータリアンから寄付を集める。震災で親を失いどんなに優秀であっても、どんなに勉強がたくても、将来を諦める若者が大勢います。日本の将来を担う若者に希望を与えよう。それはもうロータリーにしかできないだろうということです。では制度の具体的な内容は、7年前、2011年3月11日、東日本大震災が発生いたしました。この震災の遺児達に奨学金を給付する制度がロータリー希望の風奨学金です。震災児に毎月5万円給付する奨学金。では高校生はもらえるのか？留年してもいいのか？利息はあるのか？返済方法は？など色々勉強しました。正確に言うところこの制度は、高等学校を卒業してその先へ進学したい遺児達に、毎月5万円を給付します。そして、返済を求めない奨学金制度です。中学生、小学生はもらえません。それは国が支援しています。また、高校卒業の学力が前提となっていて、高校の先生の推薦で給付をしています。また、入学した後退学したり、停学したり、そういう処分を受けるとすぐに打ち切っています。では今日本の奨学金制度は他にもあるが、どうい状況になっているのかというと、日本人は古くより青少年の教育を非常に大切にしてきました。日本は手厚い奨学金制度をもってまいりました。私が学生のころには日本育英会という手厚い奨学金があったが、小泉改革ですべて崩壊してしまったので、今国が行っている奨学金は全部利息付なんです。あしなが育英会という遺児達の奨学金制度もありますが、利子はないが返済しなくてはならない。多くの学生たちは、卒業したあと返済できないで大変困っているのが現状です。特に地方都市から大学へ入学するかたが、激減している。地方出身で都会の学校に通うということを親が支援できない。それほど今日本の青少年育成というのは苦戦しております。そんな中ロータリー希望の風奨学金は、高校の先さらに勉強したい震災遺児に無利息で返済することのない、そして毎月5万円の奨学金がもらえる、日本でも稀にみる素晴らしい制度でございます。この制度がスタートしたのが震災のあった年の11月です。なぜこの制度ができたのかその経緯を知れば、なぜこの仕組みになったのかということをご理解いただけるかと思えます。3.11未曾有の地震と津波に襲われ、北海道から千葉までロータリー7つの地区が被災しました。これほど全国で被災を受けたのはロータリー結成以来初めてのことでした。そこへ各地区では、どこにどう支援すべきか非常に判断しました。そこで2010年-2011年度ガバナー会が窓口となり、全国から義援金が集まりました。

まず2580地区から1千万円がすぐに集まりました。そのたった3か月後の6月には9億円、最後は10億4千万円も集まりました。ではこの義援金をどう活用したらよいか悩みました。被災地区のガバナーはロータリークラブが維持できない。特に福島あたりはすべてのクラブが被災している。とりえず緊急的に1億6千8百万円を義援金にしました。しかし本来寄付金というのは、ロータリーがロータリーに相互扶助してはいけない。広くみんなのために出さなくてはならない。そこで福島のガバナーから「10億円を分配してもすぐになくなってしまふ。昔、米沢藩の米百俵の話があります。それを最初に言ったのは、米山さんなんです。1923年関東大震災、当時設立3年目の東京ロータリークラブの決断なんです。国際ロータリー(RI)をはじめ世界17カ国503クラブから約20億円以上が集められました。この時の米山さんの判断は、支援の対象は、生まれたばかりの赤ちゃん・母親・小学生に使うという判断をされました。そこで東京・神奈川にある被災した小学校188校の修復・学用品の購入・孤児院の建設などとなりました。ロータリーには1円も支援しなかった。この米山精神、それは今でも続いています。この思想は、1995年の阪神淡路大震災、2004年の新潟中越地震でも同じような義援方法をとっております。今回、東日本大震災という複数の大規模な震災に対して、委員会は3つの項目を決めました。まず公正であること。建設的前向きであるということ。3つ目が大事で、暖かく心を寄り添うこと。この3つの柱を作りました。これはポールハリスが唱えた社会奉仕の一番基本の概念です。この3つの精神でいくつかのプランを立てていきました。具体的には、被災児への教育環境を整備したりすることです。当初は赤ちゃんから高校生まで支援したかったが、10億円くらいでは高校生以上しか援助できないだろうと。また国もこのときは、大学生に対する支援は一切行っていなかった。被災遺児は全員大学入学を諦める状況でした。ロータリーのプロジェクトは、複数年度に渡ることを各区分でやるのは難しい。米山記念奨学金や青少年奉仕のように、RIが主観してるものは出来るが、クラブ単位や地区単位で行っているものを、複数年度行うことは難しいということで、もう一度仕切り直そうということになり、残りのお金8億円を各地区に返還しました。その後、この年のガバナーが集まりました。全国を縦断する協議会を作りました。その初代委員長が、当地区の上野さんで全部で12名12地区が参加しました。そしてすぐに3億円が集まりました。一番多く出してくれたのが台湾。あと、京都・奈良。東京は結構ケチでした。そして改めて高校生を対象から外して、大学・短大・専門学校生の制度で行きました。それでもお金が足りない時、台湾から1億3千万円が入って、約4億ほどの資金ができました。このプログラムは、震災の時に生まれた赤ちゃんが大学を卒業するまで続けるもので、決して公共的なものではございません。とはいえ、あと15年間続けなければいけません。この支給対象者は概ね2千名ほどです。中には中学・高校を卒業して就職する人もいますでしょう。また被災者の経済環境も回復してきています。被災遺児の個人情報把握できなくなってきていて、管理も難しくなっています。ただ最大予測人数から試算すると、あと10億3千万円ほど必要と見積もっています。現時点での累計額は8億5千万円。これから試算すると、あと1億7千万から8千万円が不足していると見積もっています。しかし震災から6年が経過すると、熱い熱意が減って寄付額が集まりにくくなっています。例年6千万から7千万円集まっていたのが、2年前から集まりにくくなっています。そこで前年度より、各地区において支援特別委員会を作りました。そしてスタッフの人数も今年度は、地区役員7名で形成しております。全国的にあと2-3年頑張ると、あと2億円を集めようということになっています。事務局は秋田地区で、お金の管理は千葉地区、HPやPRは兵庫地区となっているが、来年度からは2580地区が全部やる。あと2-3年は2580地区の大きな目玉となってきます。本当に寄付をお願いしたいとやみくもに言うのではなく、内容を理解したうえで協力していただきたい。寄付にも色々あります。誰に寄付するのかわからないものもあります。でもこれは誰にお金を渡すかが明確なんです。入会したばかりの会員は寄付が多くて疑問に思うことがあります。基本的にロータリーは寄付の強要はできません。我々はI serveの考え方なので、自発的です。ひとりひとりの他助の気持ちとしてご協力いただければと思います。